

令和3(2021)年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
 実績報告書(プログラム実施報告書)
 (研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)
 (ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI)」

課題番号： 21HT0069

プログラム名：いろいろな国の同じこと・違うこと 2021 - いのちのはじまりから学んでみよう! -



所属 研究 機関	名称	聖路加国際大学
	機関の長 職・氏名	学長・堀内成子
実施 代表者	部局	大学院看護学研究科
	職	教授
	氏名	五十嵐 ゆかり

開催日	2021年11月20日(土)
実施場所	聖路加国際大学 大村進・美枝子記念 聖路加臨床学術センター(CCA)
受講対象者	小学5・6年生
参加者数	12名(学校行事や予定変更によるキャンセルあり)
交付申請書に記載した募集人数	32名

プログラムの目的

我が国の在住外国人人口の増加から、今後の多文化共生社会を見据え、小学生の時期に多様な背景を持つ女性とコミュニケーションをとることによって、多文化共生への感受性を育むとともに異文化理解につなげる。また、出産というテーマを通じて、出産に関する解剖生理学的な知識を得るとともに妊娠や新たな命が生まれることから普遍性を知り、出産にまつわる文化儀礼などから多様性を知ることとも目的とし、実施した。

プログラムの実施の概要

<工夫した点>

- 各グループにファシリテーターを2名ずつ配置して、グループ内のコミュニケーションをサポートするとともに、全てのアクティビティに全員が参加できるように配慮した。
- グループ内でのディスカッションを多くして、考えを表出する機会を多くつくとともに、ほかのグループで話し合った内容も共有することで、異なる考えや視点を学ぶことができるようにした。
- 小学生が理解できるような平易な言葉とイラストを用いた資料を作成した。資料で学んだことを演習で体験し、その後クイズや講義などで正しい知識を提供し、知識の定着を図った。
- 在住外国人の講演から情報を得るだけでなく、チャットタイムを利用して直接コミュニケーションをとり、質問したり、疑問や感想を伝えたりという交流の機会を設けた。

<当日のスケジュール>

9:45-10:00	受付(体温・体調確認)
10:00-10:15	開校式(挨拶、オリエンテーション、科研費の説明)
10:15-10:30	グループ内での自己紹介(休憩 5分)
10:35-10:55	講義「科研の成果 1: 日本における在住外国人の出産・育児体験」
10:55-11:15	講義・演習「科研の成果 2: 多文化共生の感受性を高めるプログラム」(休憩 10分)
11:25-11:45	演習 絵を描く演習・クイズ(移動 5分)
11:50-12:20	演習 模型を使用した演習 / 妊婦体験の演習 妊婦さんの腹部触診の演習
12:20-13:20	昼食
13:20-14:00	演習 「在住外国人のお話」(休憩 10分)
14:10-14:50	演習 「在住外国人のお話」(休憩 10分)
15:00-15:30	チャットタイム 子どもたちと在住外国人のみなさんとの交流
15:30-15:40	講義 同じこと・違うことのまとめ・質疑応答
15:40-16:00	閉校式(未来博士号授与式、写真撮影、アンケート)、解散



<実施の様子>



絵を描く演習



クイズ



模型を使用した演習



妊婦体験の演習



妊婦さんの腹部触診の演習



妊婦さんの腹部触診の演習



在住外国人のお話



在住外国人のお話



チャットタイム



チャットタイム



閉校式

<事務局との連絡体制>

本学の研究助成課が経理の管理や日本学術振興会との連絡調整を行った。

<広報活動>

近隣の小学校の教員に連絡したり、PTAを通じて広報を行った。また本学の広報と連携し、HPにも案内を掲載した。当初は8月の開催予定であり申し込みがあったが、新型コロナウイルスの感染が急速に拡大した時期であったため、11月に延期した。その後、広報活動を継続したが、11月は時期的に学校行事が多数あったり、学習塾の集中講座があったりと、申し込み後のキャンセルがあった。

<安全の配慮>

- 妊婦ジャケットの着用の際にはファシリテーターが介助し、着脱時には参加者だけで行わないように細心の注意を払った。
- 事前に弁当を提示しアレルギーの確認は行ったが、プログラム当日も弁当や菓子を食べる前にアレルギーについて注意を促した。
- 新型コロナウイルスの感染予防から、プログラム中はマスクとフェイスシールドを着用し、適宜アルコールでの手指消毒を行った。また、定期的に換気を行った。
- 食事の前にファシリテーターと手洗い演習を行い、手指消毒を徹底した。

<今後の発展性、課題>

アンケート結果から、全受講者が「とてもおもしろかった」(10名)または「おもしろかった」(2名)と回答しており、満足度が非常に高かった。また、自由記載の感想も「楽しかった」「また参加したい」というプログラム全体を楽しむことができたという声や「先生たちの説明が分かりやすかった」「外国人の人たちと話せてよい経験になった」「いろいろな人と会ったり、体験ができてよかった」などの肯定的なコメントのみであった。さらに多くの文化に触れることの楽しさだけでなく、「妊娠、出産のお母さんの苦勞が今まで曖昧だったことがよくわかった」「妊娠したときの大変さがわかった」というコメントもあり、プログラムの目的を達成できたのではないと思う。

「将来、研究をしてみたいですか?」という質問には、「してみたい」(7名)「できればしてみたい」(5名)と全員が研究に対する興味を示しており、本研究のテーマだけでなく研究への興味関心を高めることもできたと言える。

今回は感染対策のために保護者はプログラムに参加できなかったため、受講者が自宅に戻ってから保護者とプログラムについて話をしてもらった。その後、保護者アンケートに回答してもらった。自由記載の結果から「先生方や若い大学院生の皆さんが楽しそうにしているので、こちらも楽しくなりました。また大学院生が近くにいてくれたので、気軽に質問できたようです」「先生方や大学院生の皆さんが楽しそうだったので、大学っていいな、と言っていました」など、受講者とプログラムスタッフとの交流がスムーズであったことを評価するコメントのみであった。また「多様性を学ぶことはとても大切ですが、実生活ではなかなか難しいです。普通って何だろう、そんなものはないのだろうと、私も考えさせられました」「参加したことで子供の成長を感じました。本当に素晴らしいプログラムをありがとうございました」というプログラムの目的や内容へ高い評価を得たとともに、保護者も学びがあった様子もうかがえた。さらにアンケート結果から、受講者に強い印象を与えたのは、妊婦体験、妊婦の腹部触診、様々な国の出産の話や背景の異なる外国人との交流であり、それぞれの受講者がプログラムで経験したことを自宅に帰ってから一生懸命語った様子が伝わってきた。また、普段口数が少ない受講者でさえも興奮して話をした様子で、家族内のコミュニケーションの促進にもつながったようであった。本プログラムへの希望は、毎年継続してほしい、学年を変えても行ってほしい、継続的な学びになるよう来年は中学生を対象にしてほしい、などがあり、対象学年の検討をしていきたいと思う。

今後の課題は、プログラムの開催時期の検討である。今回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、やむを得ず11月に開催した。しかし、11月は週末であっても時期的に参加が難しいことが分かったため、感染状況を確認しながら、今後は夏季休暇の時期に開催したい。プログラムの構成については、全体の時間が6時間であり、昼休みがあっても疲労を感じた受講者もあったため、プログラムの構成を短くするか、あるいは2日に分けるなどの検討も必要であると考えられる。

本プログラム内容は、受講者、保護者の両者から非常に高い評価を得ている。多文化共生と多様性というテーマは、今後の社会で増々重要になるとともに学びへのニーズも高い。そのため、本プログラムの構成を基盤とし、変わりゆく社会に沿った内容も取り入れながら、本プログラムの提供を継続していきたいと思う。